

ご勘弁願います。

ソ満国境最前線、穆陵地区に出勤した我が部隊将兵は、劣悪な条件にもかかわらず、ソ連軍南下を一時的にも阻止し、死傷したる将兵に対して深甚の敬意を表し、筆をおく。

平成十二年七月十三日

抑留記

滋賀県 池田 泰三

大正十三（一九二四）年七月二日、彦根市連着町で生まれた。

滋賀県立彦根工業学校染色科卒業、京都丸紅に就職。

昭和十九（一九四四）年十月一日に青森県弘前^{しちよう}自動車隊に入営。地下足袋に巻脚絆に竹水筒、注射。

一週間して満州山神府入隊。弟、十月十五日に予科練岡崎海軍航空隊に入隊通知。父親は舞鶴に徴用されて

いた。家は妹と叔母がいた。

山神府で初年兵教育を受けて乙幹に任命。黒河、山神府より弾薬南下輸送途中、チチハル三十キロ手前、日ソ開戦。チチハルにて武装解除。

ハイラルでの戦場掃除という司令部よりの通知でジャラン屯より上下二段有蓋貨車に乗せられ、チョスイ（時計）の身体検査を受け、バイカル湖を過ぎ、クラスノヤルスク第一收容所。小川少佐以下一五〇〇人。クラスノヤルスクには三十二の工場がある。第八機関車工場に就労、ドイツ製四メートルもある機械三台を一人で操作。機関車の側壁四センチの鉄板を七枚切り、磨く、スロッターミリーリングを操作。最初は見習い十二人が付いていたが二人になった。ノルマは食堂に張り出され、一二〇%、ハラシヨラポータ。一棟に約四〇人入っていた。食事はチチハルから經理少尉が味噌樽をハチミツ樽と間違えて積んだので、毎朝蓋に少しはちみつがついた食パン一枚に、キャベツが二、三枚浮いていた。尻には虎のような斑点ができて栄養失調になっていた。靴はないので下駄、今のつ

かけのようなのを履いていた。

昭和二十一年三月、召集兵はほとんど寒さと食事で、飯上げに行つて来たら死んでいた。

昭和二十二年の春よりソ連兵の警備がつかなくて自由に出勤。二十二年、二十三年の春のタンポポは皆摘んで食べていた。日曜日は食堂で共産主義の話。演劇をしていた。私はやめた。工場の中でも寒くて大きなファンが回っているのに毛糸手袋、軍手、大手（ダイテ）と、外とうを着て仕事をしていた。

ロスケのマダムと物々交換をしている時、戦友がダモイらしいという話をしていた。

ダモイの日までれんが工場の使役をしていた。

ダモイ列車途中、半年前に帰つたはずの戦友が道路工事をしていた。ナホトカに着いて第三收容所に入って寝台の順番を決めていたら、すぐに第二收容所に入り、一晩泊まった次の日は第一收容所に入った。ここに入ると使役はないとの事。

一週間程で引揚船が来た。皆甲板に上り日本の旗を見ていた。一番感激したのは舞鶴港の山を見たとき最

高でした。

十八日ナホトカ到着、二十五日ナホトカ出帆、二十日八日舞鶴上陸、昭和二十三年八月三十一日帰宅。

シベリア抑留前後の記

滋賀県 堀 栄次郎

兵歴の概略

生年月日 大正三（一九一四）年十二月十九日

出生地 滋賀県彦根市

召集入隊 昭和十九年八月二十三日 福井県敦賀市中

部第三六部隊

昭和十九年九月二日 満州琿瑯第六一

二部隊第一中隊

松沢隊

転属 昭和十九年十二月 満州綏化第四四

九〇部隊舟木隊

原隊復帰 昭和二十年七月 第六一二部隊